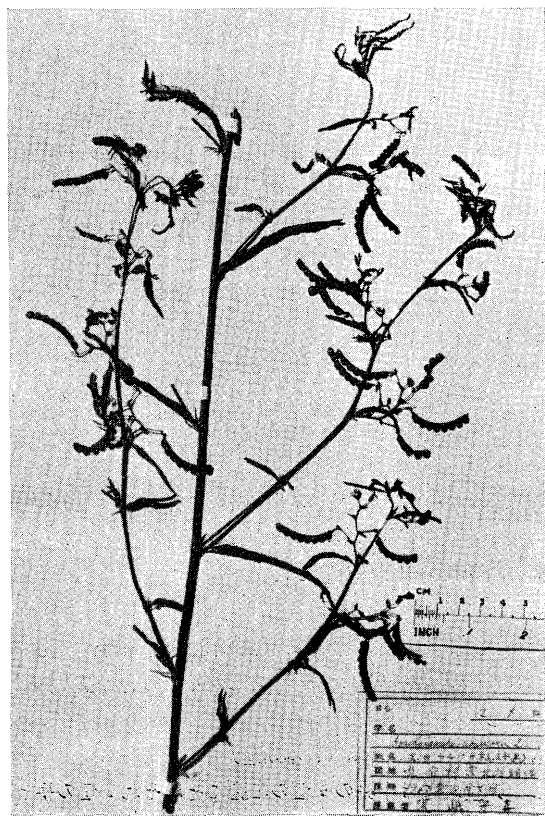


菌の形態的特徴ならびに *Phaeoseptoria* 型の不完全時代を有することから *Phaeosphaeria* 属に移された。筆者の菌にも多数の分生子殻が混生するのが認められたが、子嚢胞子に縦隔膜を有するものは観察されなかった。クサヨシの稈に寄生。

○新帰化植物エグウチクサネムについて (中島邦雄) Kunio NAKAJIMA: A new alien weed, *Aeschynomene americana* L., in Okinawa

1965年10月24日、筆者は沖縄本島国頭(クニガミ)郡恩納村(オンナソソ)にある恩納岳北西斜面にて採集中、ダム側山道一帯で開花結実中のマメ科の一外来植物と思われるものを得た。それは一見クサネムに似るも、よく枝を打ち、特に花色や豆果等が異りエキゾチックな感じである。以来、野生地および自宅の庭に移植した株で観察した結果2~4月に発芽、6~9月茎葉繁茂、9~12月に開花結実し、翌1月には全草枯死する



1年草であることが分った。高さは普通0.6~1m、時に2mに達する。茎は直立(日蔭)または斜上(陽地)、幼植物のうちからよく分枝する。茎、葉柄、花柄、豆果に黄褐色の細粗毛を布く。托葉の着点は無毛または剛毛を疎生し、長さ5~25mm、巾1~4mm、通常縁毛がある。葉は長さ5~7.5cm、巾13~21mm、20~60対の小葉からなる。花序に(1-)5-8(-11)の着花をみ、その枝は時に1~2回分枝する。包葉は卵長卵形で長さ2~4mm、巾1~1.5mm、鋭頭で無毛か鋸齒状の縁毛がある。花は長さ5~10mm、赤褐色。豆果は(3-)6-8(-9)節、節は長さ3~4mm、巾2.5~3.5mm、時々側面か縁にそって腺毛が生え、時々いぼ状突起が出る。種子は長さ2~3mm、巾1.3~2mm、暗

褐—黒色でなめらかである。

スミソニアン研究所の Dr. V.E. Rudd に同定を願った結果、北米からベネズエラのカリブ海地方原産の *Aeschynomene americana* L. で、我国では初めての外来品と分った。よく分枝することからエダウチクサネム（新称）と名づけたい。

他に国頭、恩納村谷茶（タンチャ）、久志村辺野古；中頭（ナカガミ）、嘉手納村兼久、北谷（チャタン）村北谷、北中城（キタナカグスク）村屋宜原、浦添村仲西、那覇市天久などの路傍にも見られる。

本種は分布状態から見ると、沖縄島に侵入してから10年内外と推定される。結実、発芽率ともに高く、自宅では97%以上の発芽を記録した。また緑肥や家畜飼料に活用出来る。これで日本に来ているクサネム属植物はクサネム *Ae. indica* L., アメリカクサネム *Ae. virginica* B. S. P., エダウチクサネム *Ae. americana* L. の3品になる。本稿を草するに当り英国キュー植物園の Dr. G. Taylor, スミソニアン研究所の Dr. V.E. Rudd および Dr. E.H. Walker に御世話になった。また東京都立大学の水島博士は校閲をして下さった。以上の方々に深謝を捧げる。 （沖縄宜野湾市 []）

○食用果実と食用具との関連を暗示する名について（前川文夫）Fumio MAEKAWA: Etymological note on edible nuts and shells in Johmon Era

これは多分に推定を含むものであるが、命名上の規を一にしていること、命名の時代と場所との特異性から提案するものである。それはマテバシイ、スダジイ、ツブラジイの名である。御承知のように、この三者は種子に渋を含まず、そのままでも食用になしう点、多量にとれる点で秀れた拾収経済上の食品である。ところでシイの語源はわからない。或はこのシとカシのシとは共通のものかも知れぬが、それは将来の研究でとけることを期待して、シイという食糧となる一群の果実があり、それにマテバ、スダ、ツブラとつけて区別をしたに違いない。これら三者の平行的な命名を考えると、三者の平行的な分布と利用が考えられ、それは日本文化発祥の北九州であったのではなかろうか。そしてそれは遠く縄文時代にまで溯れるであろう。曾て千葉県加茂遺蹟（縄文）から発掘されたマテバシイは少し若い頃に果実のへたの部分をつんで、中味を押し出して食べたと思われる歯型を明らかに残したものがでていて、縄文人の食糧として十分な資格があった。

ところで北九州とすると、ここに一つのヒントがある。それは有明海のマテガイである。マテバシイの太くて長く、且つ、つやのある果実は、他の2種のシイにくらべて異色があり、これはマテガイの連想で区別されたであろう。マテバシイはマテジイともいい、マテに似たシイである可能性は高い。そうするとあとの二つがにわかに意味を持つ。それはツブラはツブでタニシである。スダは何か。シタダミのはいもとほろうトコ